

The Japan Association of Radiological Technologists  
ネットワーク・ノウ

# Network 12 / 1

## Now

2017 No.504

JART情報  
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会  
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル31階  
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



# 2017年 JART 10大ニュース!!



## 1 医療放射線適正管理に関する 検討会発足

厚生労働省内に、医療放射線適正管理に関する検討会が立ち上がり、平成29年4月19日（水）に第1回の検討会が行われた。本会からは、構成員として小田正記理事を派遣した。

## 2 診療放射線技師学校養成所指定 規則の見直しに向けて

平成27年2月20日付、厚生労働省の通知（医政発0220第2号）により、業務拡大に伴う教育内容および単位数について見直しが行われ、93単位から95単位へと2単位の増加が図られた。しかし、学校教育2単位では診療放射線技師の業務内容や求められる技術や能力について、十分反映されたとは言い難い。本会では、追加および修正が必要として、診療放射線技師学校養成所指定規則の見直しに向けた取り組みを行った。

## 3 創立70周年記念式典挙行される

平成29年6月2日（金）午後2時より、パレスホテル東京において創立70周年記念式典が挙行された。その後、厚生労働大臣表彰が執り行われ、各都道府県（診療）放射線技師会から各1人の推薦と本会から10人の推薦があり、被表彰者は57人であった。祝電披露では、外務大臣 岸田文雄さま、自民党 鴨下一郎さま、公益社団法人日本歯科医師会会長 堀憲郎さまなどからのお祝いの言葉が披露された。



## 4 第33回日本診療放射線技師学術大会・ 第24回東アジア学術交流大会開催される

平成29年9月22日（金）から24日（日）までの3日間、北海道 函館市民会館および函館アリーナにおいて、第33回日本診療放射線技師学術大会・第24回東アジア学術交流大会が開催された。

公益社団法人日本診療放射線技師会の主催、一般社団法人北海道放射線技師会の共催により「国民と共にチーム医療を推進しよう 未来への開港 一技の継承と飛躍」をテーマに、約1,800人の参加者があった。演題数は588演題となり、過去最多となった。



### 5 島根原子力発電所施設見学ならびに 島根県知事表敬訪問報告

平成29年8月4日(金)、平成29年度日本診療放射線技師会幹事会の施設見学として原子力発電所が計画され、本部から中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田執行理事、江田理事、野村事務局長が、島根県からは小林理事、山田島根県会長の総勢8人で、島根原子力発電所の施設見学を行った。

福島第一原子力発電所事故を踏まえ、原子力発電所での検問が厳しく、入所には事前提出書類と身分証明書に一字一句間違いがないか確認するため、かなりの時間を要した。原子力発電所敷地内には約3,000人(職員500人、指定業者2,500人)が勤務されており、毎朝、毎夕に検問を受ける車でかなり混雑すると説明された。

島根県庁健康福祉部では、吉川部長から『協力協定書』協力事項・2項「医療現場における患者及び医療従事者の被ばく防止対策に関すること」による“患者の被ばく防止対策について”の現状について質問があり、中澤会長が本会資料、①JART医療被ばくガイドライン(低減目標値)②DRLs 2015(医療被ばく研究情報ネットワーク)③被ばく低減認定施設一覧④被ばく低減認定条件のチェック項目一覧⑤レントゲン手帳—を用いて説明した。本会の活動について理解をしていただき、評価を得られた。



### 6 「医療被ばく低減施設認定」倉敷中央病院が毎日新聞で紹介される!

本会では、平成19年より「安心できる放射線診療」を国民の皆さまへ提供するための事業として、医療被ばく低減施設の認定を行っており、現在、69施設が認定されている。

平成28年9月23日(金)の毎日新聞紙面およびWeb大阪朝刊に、岡山県・倉敷中央病院(第60号認定)の医療被ばく低減施設認定への取り組みに関する記事が掲載されました。

毎日新聞Web大阪朝刊(2016年9月23日)

安全に 岡山・倉敷中央病院、  
「医療被ばく低減施設」認定  
レントゲン、CT…手順工夫で  
線量抑制  
相談の管理室設置、手帳配布も



### 7 第78回公益社団法人日本診療放射線技師会 定時総会開催される

平成29年6月3日(土)午前11時から午後2時30分まで、日経ホールにおいて第78回公益社団法人日本診療放射線技師会 定時総会が開催された。開会の辞を佐野副会長が述べ、続いて中澤会長より会長あいさつとして3つの話があった。1つ目は、統一講習会について、受講者が集まりにくい会場でも、ニーズがあれば幅広く開催していただきたいこと。2つ目は、診療放射線技師学校養成所指定規則について、臨床実習の単位も含めて合計で102単位として、厚生労働省へ提出する予定であること。3つ目は、教育の在り方について、診療放射線技師学校養成所では四年制大学の割合が多い中、今後、修士などの学位の取得が望まれるとのことであった。



### 8 東日本大震災六周年追悼式挙行される

平成29年3月11日(土)午後2時30分から、国立劇場で東日本大震災六周年追悼式が政府主催により挙行された。東日本大震災は被災地域が広範に及び、極めて多数の犠牲者を出すとともに、国民生活に多大な影響を及ぼした未曾有の大災害であったことから、発災6年を機に、国として、被災者を追悼する式典を開催したものであった。当日は、文仁親王同妃両殿下のご臨席の下に、各界代表の参列を得て実施された。本会からは中澤会長が出席した。

追悼式は、国歌斉唱、黙とうの後、内閣総理大臣式辞および追悼の辞があった。追悼の辞では、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官および遺族代表から述べられ、その後、献花が行われ閉式した。

### 9 診療放射線技師基礎技術講習「超音波実技」開催報告

平成29年2月18日(土)、本会事務所講義室において診療放射線技師基礎技術講習(超音波実技講習会)が開催された。

本講習会は「今から始める超音波検査」と題して、超音波検査未経験または再履修したいと考えているミドルシニア・シニア会員を対象に実施された。超音波検査をセカンドキャリアとして活用していただくことを目的として、実技講習を

中心に、受講者数30人限定（当日27人）、講師5人、実習インストラクター5人、実習用超音波装置5台と、充実した内容で行われた。

「肝」「胆・胆道」「膵・脾臓」「腎・膀胱」「腹部大動脈・その他」の5領域について各30分の基礎講義の後、5班（5～6人／班）に分かれ午前90分と午後120分の2回の実技講習を行った。実技では、プローブの持ち方や動かし方、対象臓器ごとの基本走査法やコツ、走査上の注意点やピットホールなど、受講者一人一人に講師が丁寧に説明された。未経験者や初心者にとって、超音波検査の習得は座学だけでは難しいため、実技をメインとした講習会は大変有意義であり、本講習会でも受講者が熱心に受講されていたことが印象的であった。

今回の講習会は、日本診療放射線技師会の超音波研修事業の一環で実施されたが、病院での臨床業務に生かすことはも



とより、就労のためのキャリアアップ、在宅医療や大規模災害における診療放射線技師の関わりを、超音波検査によって実現する期待も込められている。

## 10 第3回JSRT-JART将来構想会議 開催される

平成29年1月7日（土）に、第3回JSRT-JART将来構想会議が本会事務所で開催された。平成27年7月19日に第1回会議が開催され、今回で3回目となる。出席者は、本会より熊代正行（倉敷中央病院）、富田博信（済生会川口総合病院）、児玉直樹（高崎健康福祉大学）、森 美加（杏林大学）。JSRTより船橋正夫（大阪府立急性期・総合医療センター）、小笠原克彦（北海道大学）、對間博之（茨城県立医療大学）、田中利恵（金沢大学）である。本会議は、両会の独自性を保ちつつ、より強固に連携しながら活動していくため、今後の課題および現状の整理、両会の担うべき役割、今後の方針（案）などについて意見を交わし、相互の発展に寄与させるべく未来へ向けた建設的な合同会議である。協議内容は、本年度中に両会の理事会へ答申案を提出するため準備を進めている。

※10大ニュース文中の組織名や役職名などは掲載当時のものです。ご了承ください。

## 平成29年度 マネジメント研修会が東京会場で開催される

平成29年9月30日（土）、10月1日（日）の両日、本会事務所講義室および水道橋グランドホテルで、平成29年度マネジメント研修会（東会場）が開催された。

本研修会は、医療経営の効率化に対応できる人材育成、経営に参画できる診療放射線技師の養成を目的に、階層別の育成研修として企画している。本年度は、シニアマネジャーコース（宿泊参加もしくは日帰り参加）・ミドルマネジャーコース（日帰り参加）を企画した。参加者は合計40人（シニアマネジャーコース宿泊参加：21人、シニアマネジャーコース日帰り参加：10人、ミドルマネジャーコース参加：9人）。過去の本研修会に参加実績のある方や女性の参加者も目立つマネジメント研修会であった。

初日は、ミドル・シニア合同研修会として人員配置や原価計算など、マネジメントの基礎に関する内容を中心に構成した。基調講演では、本会中澤靖夫会長から「日本診療放射線技師会の現状と課題」について、診療報酬関連として横浜市立大学病院 臼井淳之氏から「放射線機器の適正人員配置に



ついて」、特別講演は、上尾中央医科グループ 田中武志氏から「放射線機器の原価計算について」の講演が行われた。ワークショップでは、医療機関で多く用いられているフレームワークであるSWOT分析を行い、チーム医療における診療放射線技師をグループワークで分析した。

ナイトセミナーでは、「激変する医療情勢に対応できる診療放射線技師像」をテーマとし、人材育成を中心に活発な討論が繰り広げられた。宿泊での参加者はもちろん、中澤会長

はじめ講師の先生方にもアドバイザーとして参加していただき、各医療機関での問題にさまざまな立場から、本音でリアルな意見交換が行われた。例年、恒例になりつつあるこのナイトセミナーは、講義やワークショップだけでは決して得られない管理者同士の本音の意見交換や懇親を深める機会となり、貴重な情報共有・人脈形成の場となっていた。各施設へ戻った後も、ここで得られた人脈や交流を生かして、それぞれの現場での課題に取り組んでいただきたい。

2日目は、シニア対象の内容とし、東京都診療放射線技師会 篠原健一会長より「技師会活動を通じた人材マネジメント」と題して、東京都診療放射線技師会でのマネジメント研修の実際や、業務標準化への取り組みなどについてご講演いただいた。また特別講演では、株式会社経営戦略室 宝徳健氏より、実際に医療機関へも介入している経験から「リーダーの役割」と題し、管理者としての考え方や振る舞い方などを自身の経験も交えてご講演いただいた。

2日間の総まとめである全体討論では、佐野幹夫委員長に

よる進行の下、講師の先生方を交え最後まで活発な意見交換が行われ、盛会のうちに終了した。

なお、本年度は平成30年1月に西会場(大阪府)でのマネジメント研修会開催も予定しており、マネジメントに興味のある方、職場で課題を抱えている方など、多くの方々にとって有意義な研修・交流の場となるよう準備を整え、大阪でお待ちしております。

今後の本研修会では、本会で策定中であるマネジメントリーダーとリンクさせた階層別研修などを検討している。本研修会をきっかけに、多くの診療放射線技師が医療経営に参画し、診療放射線技師による部長や副病院長などが数多く誕生するよう、われわれの職域向上、職場環境の改善に向けた本委員会活動の充実を図っていききたい。

最後に、ご多忙の中、講師を引き受けてくださった先生方、参加された会員の皆さま、そして関係者の皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。

(人材育成委員会 マネジメント研修班 糟谷明大)



## 診療放射線技師マネジメント研修会に参加して

### 鬼頭 菜穂子

横浜旭中央総合病院

#### 参加者の声

昇格をして、プレーヤーだけではなく、マネジメント側のことも考えなくてはならない立場になって半年がたちましたが、分からないことばかりで悩んでいるときにこのセミナーの案内を見つけ、内容にも惹かれすぐに受講を決めました。技師の勉強会の多くは各モダリティや読影が中心ですが、経験を積んだ技師であれば、それだけでは済まないことをヒシヒシと感じる機会は多いと思います。2日間にわたりリーダーとは何か、また現状を読み解く分析の仕方、人員配置の考え方、機器の原価計算など、多岐にわたる講義やワークショップを通じ、まだトップではなくても今後必要となるもの

のを得ることができ、参加をして本当に良かったと思います。特にナイトセミナーでは、なかなか聞くことができないような話を聞くことができ、自分もややもやしていたことに対してアドバイスがもらえ、多くの方と知り合えたことは、講義を聴く以上にとってもプラスになったと感じています。いきなりいろいろなことを変えることはできませんが、今回経験したことがきっかけとなって、物事に対して今までと違う視点から見ることを意識するようになりました。現時点でうまくいなくて悩んでいることはたくさんありますが、今回の研修を通して学んだことを生かし、1年後には同じことで悩んでいないようにしたいと思います。また機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。

### 村田 喜弘

姫路中央病院

#### 参加者の声

東京で開催された診療放射線技師マネジメント研修会に参加させていただいた。この研修会の参加形式は1泊2日の宿

泊コースと日帰りでの2日間コースがあり、本会中澤会長による、厚生労働省が進める医療政策の中での現在の診療放射線技師会の立ち位置、今後の方向性についての講演で幕を開けた。技師会の現状と課題、放射線機器の適正人員配置と減価償却、実践SWOT分析、激変する医療情勢に対応できる

診療放射線技師像、人材マネジメント、リーダーの役割と、多岐にわたるテーマについて講演やグループワーク、セミナー形式の討論会などが行われた。宿泊コースでは午後9時からナイトセミナーがあり、妊娠や育児に関する女性技師の雇用問題、育児や介護における休暇の問題、専門技師制度の問題、技師同士のコミュニケーションの必要性、共に高め合う相乗効果などの視点から、通常の研修会や講習会では発言

しにくい内容が夜中までフリートークで発言された。このナイトセミナーでは普段は聞けない本音が語られ、自分自身の置かれた立場でさまざまなことに気付かされるとともに考えさせられた。この研修を通して、現在の医療情勢と今後の変化を知り、当院での自らが取り組むべき課題を見つけることができた。今後の医療政策と地域ニーズに着目し、地域医療に貢献していきたい。

## 平成29年度 第6回理事会開催される

平成29年10月14日（土）、平成29年度第6回理事会が鈴鹿医療科学大学JART記念館で開催された。

開催に先立ち、本会理事 鈴木毅厚氏による特別講演があった。鈴木理事は、水難事故を防止するための研究をされており、人を助ける心理についての講演が行われた。集団の中では助けに出にくくなる集団同調性バイアスなどの話もあり、その際に性別も関与しているとのことであった。また他者へのいたわりは、自分自身にも良い作用を生じることが述べられていた。

開催に当たり、理事の出席者数は定款第41条の定足数を満たしており、本理事会は成立した。

初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、第33回日本診療放射線技師学術大会（函館）のお礼であった。北海道の板東大会長をはじめ、実行委員の皆さまなどへ感謝の言葉を述べた。2つ目は、柔道整復師法の一部を改正する法律案についてであった。会誌12月号の巻頭言にも記載した通り、各都道府県（診療）放射線技師会においても認識していただけるよう要請があった。3つ目は、衆議院選挙についてであった。

主な議題は「事業変更について」「第34回日本診療放射線技師学術大会ポスターについて」および「委員会の組織構成および委員の承認について」であり、報告事項は「会員動向報告」「生涯教育システム委員会報告」「編集委員会報告」「会員情報システム委員会報告」「調査委員会報告」「医療安全対策委員会報告」「災害対策委員会報告」「第33回函館学術大会の報告について」「第34回下関学術大会について」および「医療被ばく低減施設認定更新報告」であった。

「事業変更について」では、事務局から、内閣府の指導に基づき変更される事業について説明があった。「第34回日本診療放射線技師学術大会ポスターについて」では、山内大会長から説明があり、配布したポスターに「後援」を追記するなどの若干の修正があったが、承認された。「委員会の組織構成および委員の承認について」では、総務委員会 江田理事から、国際委員会および企画委員会の委員の追加について説明

があり、承認された。「会員動向報告」では、事務局から、平成28年9月の会員数（28,665人）と比較し、平成29年9月の会員数（29,320人）は増加していたとの報告があった。「生涯教育システム委員会報告」では、学術教育委員会 中村理事から報告があった。キックオフミーティングが開催され、要件の確定を行い来年度にシステム改修、2019年4月運用開始を目標として進められている。「編集委員会報告」では、編集委員会 富田理事から、JART10大ニュースのコンテンツや会誌の表紙デザインなどの報告があった。「会員情報システム委員会報告」では、松田理事から、学術大会演題登録システム開発の起案書について報告があった。「調査委員会報告」では、小林理事から、平成29年度診療放射線技師業務に関する調査について、平成27年度の調査結果と比較した内容の報告があった。「医療安全対策委員会報告」では、山本理事から感染予防マニュアル、放射線業務の質管理マニュアルおよびI/Aレポートについて報告があった。「災害対策委員会報告」では、北川理事から災害支援診療放射線技師研修会の報告があった。日時は平成29年12月23日（土・祝）、24日（日）であり、会場は本会講義室で開催される予定である。「第33回函館学術大会の報告について」では、板東大会長から参加者数および協賛企業の報告があった。「医療被ばく低減施設認定更新報告」では、3施設が認定され合計で77施設となったことについて横田理事から報告があった。最後に今後の予定を確認し、本理事会は無事に終了した。

詳細な内容は、議事録（抄）を参照されたい。



# 平成29年度 第2回 被ばく線量適正化講習会 開催報告

平成29年10月15日(日)に、名古屋掖済会病院講堂で標記講習会が開催された。当日はあいにくの雨であったが48人の方々にご参加いただいた。本講習会は、診断参考レベルの普及と医療被ばく低減施設認定の促進を目的として、昨年度から2年間の予定で開催している。

国連機関をはじめとして医療被ばく線量の最適化が求められている中、8月3日には日本学術会議より「CT検査による医療被ばくの低減に関する提言」が発表され、非常にタイムリーな講習になったと考える。

講習会では、委員会報告として諸澄邦彦委員から「医療被ばく低減に向けた診断参考レベルの活用について」と題して、1990年代からの医療被ばく低減に関する活動経緯、2015年に策定された診断参考レベルの考え方について説明があった。会員報告としてJA愛知厚生連 安城更生病院の柘植達矢氏より「医療被ばく低減施設認定への取り組み」と題して、グループの全8施設が認定取得に組み込み、その際に苦労された事例や良かった点、そして今後の展望など具体例を挙げてご説明いただいた。認定取得に向けて準備中のご施設には大変参考になったと考える。特別講演では、朝日新聞社・特別報道部記者で「医療・被曝」を担当されている大岩ゆり氏より「患者が望む放射線検査と治療」と題して、記事の作成



過程での取材の方法や事実確認の方法など、実際の記事を例に解説していただいた。またジャーナリストとしての立場から、患者目線と医療提供者目線での解説もあり、非常に興味深いご講演であった。総合討論には60分間の十分な時間を設定していたが、熱心な意見交換が行われ、あっという間に過ぎてしまった。今後、予定している2回(香川県、大分県)の本講習会も有意義な講習になることを期待する。

最後に、本講習会の開催にご協力いただいた愛知県診療放射線技師会の方々にお礼申し上げる。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)

## 入魂式 挙行される

平成29年10月14日(土)、鈴鹿医療科学大学内で入魂式が行われた。平成28年度の物故者は41人であった。

初めに、中澤会長からお言葉があり、黙とうをささげるとともに献花をお供えた。続いて副会長および理事らが献花をお供えし、厳粛な雰囲気の中に閉式した。



## おわびと訂正

Network Now 11月1日号・7ページに掲載しました「平成28年度 永年勤続表彰者(30年勤続表彰)」において、日野理恵さま、山口裕三さまの所属県名に誤りがありました。心よりおわび申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

誤：鳥取県 日野理恵 山口裕三  
正：島根県 日野理恵 山口裕三

APOLOGY

## 第3回 第34回日本診療放射線技師学術大会 山口への道 下関ってこんなところ！

実行委員 小田真一郎

（山口県診療放射線技師会 会誌広報担当常任理事）

### 吉田松陰と高杉晋作（その2）

前号では「下関ってこんなところ！」と題しながら、話が乃木坂まで飛んでしまい、下関の紹介があまりできませんでした。今回は、主な活躍の場が下関であった高杉晋作が主人公です。

高杉晋作は、他の多くの志士たちと違い、上級武家の出身でした。それにもかかわらず、平和に慣れ過ぎた武士を見限り、あらゆる身分から隊員を募って創設した奇兵隊は、吉田松陰が唱えた「草莽崛起（そうもうくつき：在野よ立ち上がれという意）」を具現化した軍隊といえるでしょう。隊の創設当初は、市内の阿弥陀寺を本拠地としていました。その阿弥陀寺の隣には、安徳帝を祭る赤間神宮、ふぐ料理の老舗中の老舗「春帆楼」本店が隣接しています。さらに徒歩圏内には、海鮮グルメの殿堂「唐戸市場」と「カモンワーク」、門司港から連絡船で約5分、今学術大会の講師予定である獣医さんが勤務する「海響館（市立しものせき水族館）」があり、この一帯は一大観光スポットとなっています。

晋作の短い人生のクライマックスは「回天義挙」と呼ばれる行動です。時は元治元年（1864年）8月、下関が四力国連合艦隊に徹底的に砲撃され、幕府の第一次長州征伐も迫り、八方塞りの長州藩は攘夷派の家老を切腹させるなど、幕府に対し謝罪恭順する方針となっていました。しかし、松陰の「死して不朽の見込みあらばいつでも死ぬべし、生きて大業の見込みあらばいつでも生くべし」との教えを守り、逃げたり隠れたりした連続であった晋作が一転、ついに命を賭して立ち上がり、12月15日、降りしきる雪の中、わずか八十数人を率いて藩内クーデターを起こします。その場所は、下関市街から東へ約8キロの長府・功山寺。晋作は、都落ちしこの寺にかくまわれていた攘夷派公卿の前で、「これよりは、長州男児の肝っ玉（腕前、説もあり）をお目に掛け申す」と決意を述べたそうです。クーデターはもちろん成功し、長州藩は倒幕へと方針転換、その後は他藩も追随し、時勢は転がるように倒幕へと動いていったのです。この功山寺挙兵がなければ、大政奉還が数年は遅れていたとか、維新の過程も結果も違っていたとさえいわれており、ここ長府が明治維新発祥の地とされています。まさに「時代の潮流を見極めた」行動だったわけですね。

晋作は、第二次長州征伐（慶応2年：1866年）の際も下関から関門海峡を渡り、小倉の戦場で活躍しましたが、この頃から結核を患い、明治維新直前の慶応3年4月、27歳の若さで亡くなりました（くしくも、坂本竜馬の暗殺も同年です）。晋作の墓は、下関市吉田町の東行庵（晋作は西行法師に敬意を表し、自ら「東行」と名乗りました）にあり、資料館も併設されています。そして境内に建立された晋作の顕彰碑の文は、若い頃、晋作に振り回されたおかげ？で、明治の元勳となった伊藤博文が表したもので、その冒頭には「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し。衆目駭然（がいぜん：ひどく驚くの意）として敢えて正視するものなし、これ我が東行高杉晋作君に非ずや」と記されています。



功山寺境内の高杉晋作回天義挙像

### 山口県診療放射線技師会からのお知らせ

函館大会では、下関大会のPRブースに大勢の来訪がありました。訪れてくださった皆さまに、厚くお礼申し上げます。また492人という多くの方々アンケートに答えていただきました。こちらもお礼申し上げますとともに、下関大会の際に貴重なご意見として活用させていただきます。

さて、アンケートの際にお約束したふぐ刺しセットのプレゼントですが、10月29日、平成29年度第4回理事会において厳正な抽選を行い、以下の3人の方々当選されました。下関観光コンベンション協会からクール便で発送致します。おめでとうございます！

北海道：山品 博子 さま

千葉県：奥村 恭将 さま

岐阜県：金森 勇雄 さま



# 第34回 日本診療放射線技師学術大会

The 34th Japan Conference of Radiological Technologists (JCRT)

## 第6回 アジア放射線治療シンポジウム

The 6th Asia Radiotherapy Symposium (ARTS)

### 国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

—時代の潮流を見極める—

The Direction of Tomorrow

会期  
Date

平成30年  
9月21日(金)~23日(日)

September 21st (Fri) -23rd (Sun) , 2018

会場  
Venue

海峡メッセ下関  
下関市生涯学習プラザ

KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI /  
Shimonoseki City Lifelong Learning Plaza

会長  
President

中澤 靖夫

(公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)

Yasuo Nakazawa (The Japan Association of Radiological Technologists)

大会長  
Chairman

山内 秀一

(一般社団法人 山口県診療放射線技師会 会長)

Shuichi Yamauchi (The Yamaguchi Association of Radiological Technologists)

URL:<http://www.convention-w.jp/jcrt34>

主催: 公益社団法人 日本診療放射線技師会

Host: The Japan Association of Radiological Technologists

共催: 一般社団法人 山口県診療放射線技師会

Cosponsor: The Yamaguchi Association of Radiological Technologists

後援: 厚生労働省(予定)

Support: Ministry of Health, Labour and Welfare

山口県(予定)

Yamaguchi Prefecture

下関市(予定)

Shimonoseki City

運営事務局

株式会社日本旅行 中四国コンベンショングループ

Congress Secretariat

〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町2-1-7 JR西日本岡山支社ビル1階 TEL:086-259-5578 FAX:086-250-7682 E-mail:jcrt34@wjcs.jp

Nippon Travel Agency Co.Ltd. Chu-shikoku Convention Group 2-1-7, Ekimae-cho, Kita-ku, Okayama, 700-0023, JAPAN Phone: +81-86-259-5578 Fax: +81-86-250-7682 E-mail: jcrt34@wjcs.jp



## 本会の動き

## 広報委員会より

広報委員会は、本会に21ある常設委員会の一つで、名前の通り各種広報活動を担務している。本稿執筆時点で構成員は6人（理事2人、委員4人）である。主な広報活動としては、「診療放射線技師」を国民に広く知ってもらうための活動、国民に医療放射線と健康について考える機会を提供する活動、そして本会の動向やイベントを会員などに周知するための活動がある。

具体的には、レントゲン週間を通じ、放射線や診療放射線技師について、国民に「正しく知っていただく」ための活動、関連団体と協働した「がん検診受診の推進」活動、Webサイトを活用した「各種情報の提供」「メールマガジンの発行」などがあり、各委員と事務局員が得意分野を生かし、それぞれを分担している。

本会Webサイトの閲覧状況としては、本年度上半期で67万余りのページ閲覧数があり、その上位を二分しているのが、会員向けセミナーなどの「開催予定」と、診療放射線技師という職業を紹介している「みんなに知ってもらいたい診療放射線技

師のこと」となっている。会員のみならず、広く国民が診療放射線技師のことを調べるためのソースとして、本会Webサイトを活用している状況がうかがえる。

また本年度からはメールマガジンの配信を開始し、本会会告やNetwork Nowへ適時にアクセス可能な環境を構築し、会員の利便を図っている。

本年度は他にも、国民向けに本会が発行している「～身近な放射線の専門家～ 診療放射線技師のことがわかる本」の改訂や関連ノベルティーの入れ替えも行っており、広報委員会として数多くの計画事業を進めている。

今後の展望としては、Webサイトのスマートフォン対応や新技術導入など、サイトリニューアルに向けた各種検討の開始やサイトコンテンツの充実、そして何より国民へ「診療放射線技師」という職業を理解してもらうためのスキームを考えるなど、会員と国民の「知りたい」に資する有効な広報（「知ってもらう」）活動を推進していきたい。

（文責：松田恵雄）

## 防災意識の向上



ここ数年、やたらとJアラートが鳴る自然災害が多くなってきたような気がする。国も早め早めの対応になってきているし、空振りしても文句は言われない。逆に遅れて出して“手遅れになったら大変なことになる”と思っているのでは（ガスの考えだ）。頻繁に鳴ることでオオカミ少年になってしまわないかを心配している。

防災意識というのは地域によって大きく違う。防災意識が低い地域では「自分たちの所ではそのような災害は起きない」と、心の底では思っているに違いない。しかし、災害は“いつ”“どこで”発生するか分からない。万が一の意識を持って、普段から防災の意識を高く持つことが重要である。では、どうすれば防災意識を高められるのかを考えてみる。まず一番いいのは災害をイメージすることだ。災害をイメージするのに必要なことは、生き残るため、死なないための努力である。比較的防災対策として多いのは、非常食の準備と備蓄をすることである。備蓄はあくまで生き残ってからのことなので、まずは生き残るためにどうすればいいかを考えておくことが大事になってくると思う。それには防災に対して興味を持ち、災害について少しでも知識を得ることが大事ではなからうか。知っているのと知らないのでは、実際に災害が起きたときの対処は変わって

る。これは救急救命法についてもいえることで、一度経験すると、ある程度できるようになるものだ。業務拡大に伴う統一講習会でAEDの実習がある。基本的にはAEDのアナウンスに従って、その通りにやればできるのだが、それがどれだけ大変か、経験したことがあるかないかですいぶん変わってくると思う。

同じように、災害についても自分でイメージしてみることが大切である。何かをイメージすることは、日常生活においてさほど特別なことではないと思う。例えばデートをする場合、事前にデートコースを考えると、旅行に行くときもいろいろ考えるはずだ。災害についても同じように「もし、今、地震が発生したらどうするか」を考えてみるのが大切である。例えば「ここから物が落ちてくるな」「このガラスも割れるかもしれないな」など、災害をイメージしておくことである。“物が落ちてくるならどうするか”を想像しておく、実際に災害が起きたときに慌てないで済むようになると思われる。

災害避難訓練が行われるならぜひ参加して、経験を積み、「自分の命は自分で守る」を心に踏まえ、近い将来発生するであろう大災害に備えてほしい。

（文責：北川明宏）

INFORMATION

## 平成29年 秋の叙勲受章者 —おめでとうございます—



<b>瑞宝双光章</b>	菊田泰亘(広島県)	北村登喜男(徳島県)	小谷善伸(茨城県)	進藤茂男(山梨県)
	鈴木啓和(東京都)	千田久治(神奈川県)	鳥羽 古(徳島県)	望月 守(静岡県)
	渡邊和美(広島県)	熊谷道朝(富山県)	田頭裕之(愛媛県)	
<b>瑞宝単光章</b>	川上康人(長崎県)	坂田幸三(神奈川県)	(敬称略・順不同、括弧内は所属地域)	

INFORMATION

## 12月・1月の講習会などスケジュールのご案内

■ 業務拡大に伴う統一講習会：	岐 阜	12月16日(土)～17日(日)	栃 木	1月 7日(日)～ 8日(月・祝)
	京 都	1月 7日(日)～ 8日(月・祝)	山 口	1月13日(土)～14日(日)
	宮 崎	1月14日(日)・21日(日)	東 京	1月20日(土)～21日(日)
	新 潟	1月21日(日)・28日(日)	静 岡	1月21日(日)・28日(日)
	北海道	1月27日(土)～28日(日)	香 川	1月27日(土)～28日(日)
	鹿児島	1月27日(土)～28日(日)		
■ 基礎技術講習(画像等手術支援)：	愛 知	12月23日(土・祝)		
■ 基礎技術講習(X線CT検査)：	岐 阜	1月14日(日)		
■ 基礎技術講習(MRI検査)：	茨 城	1月27日(土)		
■ 医療被ばく低減施設認定取得セミナー：	大 阪	12月17日(日)		
■ 下部消化管(注腸)認定診療放射線技師認定講習会：	東 京	1月 6日(土)～ 7日(日)		
■ 「看護学」(実習)講習会：	愛 知	1月14日(日)		
■ Ai認定講習会：	愛 知	1月20日(土)～21日(日)		
■ ナイトセミナー：	東 京	1月22日(月)		
■ マネジメント研修会：	大 阪	1月27日(土)～28日(日)		
■ 読影セミナー：	愛 知	1月28日(日)		
■ 認定資格試験：	東 京	1月28日(日)	大 阪	1月28日(日)

INFORMATION

## JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

## 本会への入会手続きについて(お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ❶ 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から“新規入会はこちらから”をクリック
- ❷ 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-5405-3612 E-mail : [info@jart.or.jp](mailto:info@jart.or.jp)

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。



事務所  
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。  
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は  
執務致しません。